

東西言語類型の記述的・理論的研究

研究代表者 福 田 一 雄

1. 分担者

- 福 田 一 雄 (人間学講座)
- 山 崎 幸 雄 (人間学講座)
- 船 城 俊太郎 (日本文化講座)
- 三 井 正 孝 (日本文化講座)
- 藤 石 貴 代 (東洋文化講座)
- 秋 孝 道 (英米文化講座)
- 駒 形 千 夏 (英米文化講座)
- 高 田 晴 夫 (ヨーロッパ文化講座)

2. 協力者

- 成 田 圭 市 (教育学部准教授)
- 本 間 伸 輔 (教育学部准教授)
- 池 田 英 喜 (国際センター准教授)

3. 2008年度の研究活動の概要

東西言語類型に関わる基礎研究について、以下の研究会等で議論・検討を行った。

1. 新潟大学言語研究会・人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」・現社研プロジェクト「言語の普遍性と個別性」共催

日時：平成20年5月9日(金) 午後5：30～

場所：総合教育研究棟A棟3F「学際交流室」

〈研究発表〉

星野真博（現社研）

「英語進行形の繰り返し用法について」

2. 新潟大学言語研究会・人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」・現社研プロジェクト「言語の普遍性と個別性」

日時：平成20年7月28日(月) 午後5：30～

場所：総合教育研究棟A棟3F「学際交流室」

〈研究発表〉

1. 大竹芳夫（経済学部准教授）

「名詞節化詞「の」を伴う構文と対応する他言語構文の特性」

2. 加藤茂夫（教育学部教授）

「日本の英語教育の基準はどの英語に置くべきか？

ELF（English as a Lingua Franca）の視点から」

3. 新潟大学言語研究会・人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」・現社研プロジェクト「言語の普遍性と個別性」

日時：平成20年11月15日(土) 午後2：00～

場所：総合教育研究棟A棟3F「学際交流室」

〈研究発表〉

1. 範海翔（現社研）

中国人日本語中・上級学習者における日本語語順習得上の諸問題
— 格成分を中心に —

2. 成田圭市（教育学部准教授）

（国際音声学協会）英語音声学技能試験について

3. 高田晴夫

フランス語の《動詞＋名詞》型動詞由来合成語の特徴について
— 日本語との比較の視点から —

4. 東西言語類型論研究会

新潟大学言語研究会・人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」・現社研プロジェクト「言語の普遍性と個別性」・現社研プロ

プロジェクト「フランス文化の諸問題に関する総合的研究」共催

日時：平成20年12月22日(月) 午後5：30～

場所：総合教育研究棟A棟3F「学際交流室」

〈研究発表〉

1. 駒形千夏（現社研）

ヨーロッパ言語ポートフォリオにみる言語バイオグラフィーの意義

2. 阿部 聡（現社研）

英語教材のテキスト分析：選択体系機能言語学の視点から

5. 東西言語類型論プロジェクト講演会

主催：新潟大学人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究（代表 福田一雄）および、新潟大学プロジェクト推進経費（助成B）・新潟大学人文社会・教育科学系学系長裁量経費（学系基幹研究）によるプロジェクト「諸言語の格関係交替現象に関する統語構文論的・機能構文論的研究（代表 秋 孝道）」

共催：新潟大学人文学部

日時：平成21年1月9日(金) 午後4：30～6：00

会場：新潟大学総合教育研究棟D棟3階D301「地域・国際交流促進室」

講演：東京大学大学院人文社会系研究科教授 角田太作先生

題目：連体修飾節と体言締め文

4. 2008年度の研究成果の概要

東西諸言語の普遍性と個別性を明らかにするための基礎的研究として、各言語に見られる制約・原理を明らかにするための個別研究の蓄積を前年度から継続して行った。

5. 2008年度の研究成果の一覧

福田 一 雄

1. 論文 “構文選択の動機と格関係交替現象 — 選択体系機能言語学の視点 —”，単著，『新潟大学言語文化研究』No.13，1～8頁（2008）

2. その他 “<無助詞>覚え書き”, 単著, 研究成果報告書「諸言語の格関係交替現象に関する統語構文論的・機能構文論的研究」(平成20年度新潟大学プロジェクト推進経費(助成研究B)および平成20年度新潟大学人文学部・教育科学系プロジェクト経費(学系基幹研究)(研究代表者:秋 孝道)), 49~58頁(2009)
3. 口頭発表 “レゾナンス — テクストの意味論へ向けて —”, 単独, 2008年度新潟大学英文学会大会, 新潟大学英文学会, 新潟大学(2008年10月18日)
4. 口頭発表 “日本語における無助詞の機能 — 主題性を中心に —”, 単独, 日本機能言語学会第16回秋期大会, 日本機能言語学会, お茶の水女子大学(2008年10月11日)

三 井 正 孝

論文「複合辞としてのニアタッテ — その共起条件を中心に —」, 単著, 『国語国文学会誌』50(2008)

藤 石 貴 代

1. 論文 「『마키무라 코우『간도 빨치산의 노래』의 기원(槇村浩「間島パルチザンの歌」の起源)」, 単著, 『東アジア—歴史と文化—』, 18号, 26~44頁, 新潟大学東アジア学会, 2009年3月
2. その他「喪失と省察—韓国現代文学点描」, 単著, 『國文學』, 第54巻2号, 66~72頁, 學燈社, 2009年2月
3. その他「抒情の罨—キム・ソウン金素雲とキム・シジョン金時鐘」, 単著, 『國文學』, 第53巻7号, 76~83頁, 學燈社, 2008年5月
4. 口頭発表 「『마키무라 코우『간도 빨치산의 노래』의 기원(槇村浩「間島パルチザンの歌」の起源)」, 単独, 第3回中国朝鮮民族文学国際学術會議, 中国延边大学校朝鮮—韓国学院, 2008年7月11日

秋 孝 道

1. その他 “Remarks on the Non-TM and TM constructions in English”, 単著, 平成20年度新潟大学プロジェクト推進経費(助成研究B)・人文社会・教育科学系研究プロジェクト経費(学系基幹研究)「諸言語の格関係交替現象に関する統語構文論的・機能構文論的研究」研究成果報告書, 7~15頁
2. その他 “Notes on the Wh-Cleft Construction in English”, 単著, 平成20年度新潟大学プロジェクト推進経費(助成研究B)・人文社会・教育科学系研究プロジェクト経費(学系基幹研究)「諸言語の格関係交替現象に関する統語構文論的・機能構文論的研究」研究成果報告書, 17~27頁

高 田 晴 夫

1. 口頭発表 ボルドー第3大学での発表, 単独(2008年3月27日)
「日本語の「名詞+動詞」型合成語とフランス語の等価物「動詞+名詞」型合成語についての若干の考察」
2. 口頭発表 イタリアのラクイラ大学での発表, 単独(2008年9月10日)
「フランス語の「動詞+名詞」型合成語との比較から見た日本語の「名詞+動詞」型合成語についての若干の考察」(第27回 Colloque international sur le lexique et la grammaire 国際学会)
3. 口頭発表 新潟大学での発表, 単独(2008年10月15日)
「フランス語の《動詞+名詞》型動詞由来合成語の特徴について — 日本語との比較の視点から —」(第30回例会)